

## 2014 年度「教育制度論」総括

学校教育(教育学) 山本久雄

今年度もまた「教育制度論」を取り上げる。この科目は、名称に若干の変化はあったものの、教職必修科目としてその内容、使命は変わらず、そして、筆者の関心の中心にあったものである。その担当も今年が最後となった。果たして受講者にとって意義ある授業だったのであろうか。今年も定観測により振り返ってみたい。

### 1. 授業の概要

授業の、シラバス上の目的、到達目標、内容、学部のディプロマ・ポリシー(以下、DP)との関連については、おおよそ例年通りなので繰り返さない。

受講学生は、登録上 99 名、例年と同じく、毎回補助資料を配布した。その内容、体裁も例年通りである。ただ、今年は特に授業後の小紙片の記述内容や筆者の振り返りをもとに、次回資料の冒頭に「補足」という項目を差し込み、内容理解の不足を補い、発展学習の便宜を図った。大講義室が固定机ということもあり、今年も、学生どうし、また、教員との討論の時間は殆どなかった。これはこの授業が討論や思考の前提となる知識の習得を主目的としていたからでもある。

成績評価方法はシラバス通り、毎回の小紙片、期末の筆記試験により行った。小紙片は3点満点とし、授業内容に関連する具体的体験等を織り込んだ意見が書かれているものは3点とした。その中には、味わい深い内容、ひろく討論に委ねたら面白いと思われる内容もあったが、それらを活かせなかった。今回もまた計画(シラバス)通りに実施することにとらわれ過ぎていたのであろうか。

筆記試験は今年も空欄補充の形式で行った。思考力や判断力、自己学習力の育成が求められていることは十分承知しているが、本授業の内容及び試験で測る「ちから」はそれらの前提となるものもある。もちろん、

成績評価の客観的根拠を示す必要、短時間で成績処理をする必要があることも背景にある。

### 2. アンケート結果

#### (1) 授業者独自のアンケート

第 14 回目の授業でアンケート調査を実施した。例年通り、以下の質問項目について「①強い肯定」、「②肯定」、「③否定」、「④強い否定」のうち一つを選んでマークしてもらった。むろん、無記名である。

- 1 この授業の目的は、教室での指導・学習が行われるための「教室の外」での配慮を理解する、ということだったのですが、あなたは総じて授業内容を把握できましたか。
- 2 この授業ではプリントを配布しましたが、このプリントは「教育制度論」の学習に役立ちましたか。
- 3 あなたは授業時間外にそのプリントを読む、挙げられているWEBページにアクセスする、などプリントを学習に活用しましたか。
- 4 プリントは1週間前に配布した方がよいと思いますか。
- 5 この授業で新しい知識は得られましたか。
- 6 この授業の内容には興味が持てましたか。
- 7 あなたは、教職に就くことを希望していますか。
- 8 授業外学習を促進するため、毎回、宿題を出した方がよいと思いますか。
- 9 あなたの食事、睡眠、生活リズムはいい状態にありますか。

このうち、1, 5は授業の主目的としての知識・理解を問うもの、2は充実に努めたプリントの評価・活用に関するもの、3, 4, 6, 8は学習意欲の喚起に関するもの、そして7, 9はこれらの背後にあって学習の成否を規定する要因にかかわるものである。試験の正答率の経年変化は、それぞれの問題の難易度に影響され、比較検討することは困難であるので載せない。

以下にこの5年間の集計結果を示す。「平

均」は①, ②, ③, ④の回答数にそれぞれ 4, 3, 2, 1 を乗じ, その和を人数で除した値である。

		選択肢 (%)				平均
		①	②	③	④	
質問 1	23年度	8.5	65.3	20.3	5.9	2.75
	24年度	9.6	79.5	11.0	0.0	2.99
	25年度	10.7	75.0	10.7	3.6	2.93
	26年度	13.3	75.9	9.6	1.2	3.01
質問 2	23	44.5	47.9	5.0	2.5	3.35
	24	64.9	33.8	1.4	0.0	3.64
	25	56.0	38.1	6.0	0.0	3.50
	26	44.9	48.2	6.0	1.2	3.36
質問 3	23	2.5	27.7	47.9	21.8	2.13
	24	14.9	36.5	43.2	5.4	2.61
	25	7.1	31.0	46.4	15.5	2.30
	26	3.61	36.1	50.6	9.6	2.34
質問 4	23	2.5	26.9	59.7	10.9	2.20
	24	9.6	24.7	57.5	8.2	2.36
	25	9.5	26.2	56.0	8.3	2.37
	26	13.3	33.7	47.0	6.0	2.54
質問 5	23	45.4	50.4	2.5	1.7	3.40
	24	68.9	31.1	0.0	0.0	3.69
	25	64.3	34.5	1.2	0.0	3.63
	26	53.0	47.0	0.0	0.0	3.53
質問 6	23	15.1	49.6	26.1	9.2	2.72
	24	28.4	60.8	10.8	0.0	3.18
	25	19.0	56.0	17.9	7.1	2.87
	26	21.7	59.0	15.7	2.4	3.0
質問 7	23	52.9	31.9	10.9	4.2	3.34
	24	45.8	43.1	8.3	2.8	3.32
	25	51.8	34.9	12.0	1.2	3.37
	26	50.6	39.8	6.0	3.6	3.37
質問 8	23	0.8	16.8	45.4	37.0	1.83
	24	2.7	21.6	58.1	17.6	2.09
	25	6.0	19.3	33.7	41.0	1.90
	26	3.6	20.5	48.2	27.7	2.00
質問 9	23	11.8	33.6	39.5	15.1	2.43
	24	6.8	45.9	37.8	9.5	2.50
	25	22.9	37.3	26.5	13.3	2.70
	26	18.1	37.4	38.6	6.0	2.67

結果は, 総じて例年と同様の傾向を示すが, 質問 1 (内容理解), 3 (プリント活用), 4 (プリント事前配布希望), 5 (内容に興味) のスコアは, 昨年のを若干上まわるものであった。反面, 質問 2 (プリント有用), 5 (新知識) については下まわった。宿題の希望については, 拒絶的な回答が減った。なお, 今年度の特異な現象として, 試験後に試験結果を問い合わせ

に来た受講生がおよそ半数に及んだことが挙げられる。受講生が試験に真剣に取り組んだことの証左と見ることができよう。

### (2) 「DP による授業評価」

これは受講学生がこの授業の学部 DP への貢献度を評価するものである。今年から回答を WEB 入力するという方式に切り替えたが, 回答率は 50 % に届かなかった。授業者としてはその調査の意義などをよりていねいに説明すべきであった。①が「とてもそう思う」, ②が「ある程度そう思う」, ③が「あまりそう思わない」, ④が「DP と無関係」を意味し, 「平均」は独自アンケートと同じ処理をした数値である。各項上段が昨年度, 下段が今年度の値を示す。

		選択率 (%)				平均
		①	②	③	④	
DP1	A	49.4	47.0	3.6	0.0	3.5
	B	54.3	45.7	0.0	0.0	3.5
DP2	A	26.5	39.8	26.5	7.2	2.9
	B	52.2	43.5	4.3	0.0	3.5
DP3	A	39.8	53.0	6.0	1.2	3.1
	B	45.7	52.2	2.2	0.0	3.4
DP4	A	32.5	47.0	18.1	2.4	2.7
	B	30.4	50.0	19.6	0.0	3.0
DP5	A	21.7	37.3	26.5	14.5	2.7
	B	30.4	54.3	17.4	0.0	3.1
DP6	A	12.0	41.0	31.3	15.7	2.5
	B	26.1	52.2	19.6	2.2	3.0
DP7	A	22.9	42.2	27.7	7.2	2.8
	B	28.3	54.3	17.4	0.0	3.1
DP8	A	19.3	53.0	21.7	6.0	2.9
	B	26.1	41.3	28.3	4.3	2.9
DP9	A	45.8	44.6	7.2	2.4	3.3
	B	39.1	52.2	8.7	0.0	3.3
DP10	A	12.0	42.2	25.3	20.5	2.5
	B	19.6	39.1	26.1	15.2	2.6

今年もまた, 授業者の意図と学生の受け止め方の差異に戸惑が禁じ得ない。特に DP5A は, 使命感, 責任感などの項目であるが, ある程度のスコアが出ているのは, 授業者の加齢による説教口調のなせるものか, それともこれがいわゆる「隠れたカリキュラムの顕在化」というものか。

### 3. 総括

授業評価の結果は, 総じて毎年のそれとほぼ同じ傾向となった。これは, 授業者の深く刻み込まれたものに拠るものであろう。この調査及び報告書の作成は己を知るよき機会となった。真摯に授業に臨み, 調査に応じてくれた学生諸君に感謝したい。